



男性トイレ
Men



女性トイレ
Women



西葛西駅から徒歩5分の駅近の立地である。

西葛西・井上眼科病院

- 竣工年月/2015年1月
- 所在地/東京都江戸川区西葛西3-12-14
- 施主/医療法人社団 済安堂 井上眼科病院グループ
- 延床面積/3,481m²
- 病床数/32床

特集
2

西葛西・井上眼科病院に学ぶ
ユニバーサルデザイン

「見えづらい人」も使いやすいトイレ

2015年3月。西葛西・井上眼科病院は、西葛西井上眼科こどもクリニック（小児眼科外来）、西葛西井上眼科クリニック（コンタクトレンズ外来）の2つの施設を統合・移転しました。お茶の水の井上眼科病院でも導入したユニバーサルデザイン※をさらに改良して導入。ロービジョンの方、高齢者、お子様、カラダの不自由な方など、より多くの方にとって安全で快適な診療空間が誕生しました。

視覚

男性用と女性用のトイレのピクトグラムも、オリジナルデザインを考案。女性のスカートの裾を強調するなどの工夫がなされている。

聴覚



トイレの入口天井には指向性のあるスピーカーを設け、男性用と女性用で異なる音色を出すことで、聴覚による誘導も行っている。

触覚



3F病棟の病室の部屋番号は、触覚によっても数字が認識できるように立体化されている。



足裏の感触でも動線が分かるように、カーペットの誘導路として菱形のビニールタイルが埋め込まれている。

参考文献：「井上眼科病院の実践から学ぶユニバーサルデザイン」（中央法規出版）

UNIVERSAL
DESIGN

※病院と福祉のトイレvol.7 (2008年号)で、お茶の水の井上眼科病院の取り組みをご紹介します。



病院と福祉のトイレ vol.7



天井からの光も誘導灯であり、光の反射で際立つ床タイルの白ライン矢印が進行方向を示す。

外来のユニバーサルデザイン

複数のサインを設け、複数の感覚に訴えるなど安心をサポートする工夫が満載。

さまざまな「見えづらさ」に対応できるように、安心感を抱いてもらえるアクションの誘導に配慮。複数のサインを設け、複数の感覚に訴えるなどの工夫が施されています。例えば、通路のカーペット床に埋め込まれたビニールタイルは、照明を反射し、歩く音を反響させ、さらには足裏の感触の違いで、誘導路だと分かるようになっています。サインも複数のポイントに配慮し、形状、大きさ、色、立体的な厚み、文字の書体、そして位置などを吟味。空間における光の色や強さも考慮しています。さらに、トイレはコントラストの強い色彩によって便器や手すりの位置を把握しやすくするなど、一人で失敗せずに排泄ができるようになっています。



外来の「だれでもトイレ」。便器や手洗器の白色が際立つように、壁には濃い色を配している。



書体はゴシック体 (UD新ゴ)。ベースの濃い色に、白抜き文字がくっきり浮かび上がる。

POINT 誘導サインのポイント

- 見つけやすく目立つ
- 濃い色の地に白い文字
- 見る人の視線の高さに



認識しやすくするため、立体的に厚みをつけたトイレのピクトグラム。

POINT ピクトグラムのポイント

- ぼやけてもわかる形状
- 見ただけで意味を把握
- 色に頼らず認識できる



動線のユニバーサルデザイン

外来、入院、日帰り手術の動線が交わらないように配慮。

混雑緩和と安全のために、外来、入院、日帰り手術の動線が交わらないように配慮。把握しやすいフロア構造の中に、シンプルな動線を設けることによって、迷わないように誘導することができます。主動線は原則的に一方通行とし、患者さん同士がぶつかってしまう危険性をできるだけ回避。必ず次の行き先へのサインを明示しています。分かりやすい秩序を持たせることで、患者さんが一人で行動するのをサポートできます。



光を上手に活用しながら、見やすく分かりやすく誘導の工夫がなされている。

病棟のユニバーサルデザイン

ロービジョン(低視力)に配慮し 非常時の誘導を考えた「光」の導入も。

患者さんの動作を考え、手すりを途切れないように設置。網膜剥離や糖尿病網膜症などの患者さんは、手術後数日から一週間くらいは下向きの体勢を保たなければならないので、下を向いていても病室入口を認識できるように床への工夫もあります。また、災害時に患者さんの安全を確保するため、避難経路が直感的に分かるように、病棟の廊下の手すりにLED照明を内蔵。動く光の流れで避難方向へ誘導できる、新しい工夫が施されています。



連続した手すりが病室へ誘導。災害時には手すりに埋め込まれた照明が火元と反対方向へ誘導する。



病棟トイレ。最初に、見えづらい患者さんといっしょに看護師が入り、設備の位置を説明する場合もあるため、広いスペースを確保している。



手術後の下向きの姿勢でも分かる病室の入口。

ユニバーサルデザインの7原則

- ① 公平な利用
- ② 利用における柔軟性
- ③ 単純で直感的な利用
- ④ 認知できる情報
- ⑤ 失敗に対する寛大さ
- ⑥ 少ない身体的な努力
- ⑦ 接近や利用のためのサイズと空間

アメリカの建築家、故ロナルド・メイス氏らが提唱しました。
Copyright 1997 NC State University,
The Center for Universal Design.

理事長先生からの声

これからも「患者さま第一主義」で、使いやすさのスパイラルアップにつなげて行きたいです。



医療法人社団 済安堂
理事長
井上眼科病院 院長
井上賢治さん

当院は先代から「患者さま第一主義」を理念として大切にしてきました。眼科で目の見えづらい人が来られますから、安心して安全に来院できるようにと考えました。そこで2006年に、お茶の水の井上眼科クリニックの移転時に、患者さんに安全で快適な環境を創りたいという想いを設計者に伝えたら、「それはユニバーサルデザイン(UD)です」と言われました。そこからUDの導入が始まりましたが、スタッフも私と同じ気持ちを持っていたので、みんなでUDを考えようと研究会を立ち上げ、参加型の病院づくりを行いました。その後もUD研究会は継続し、西葛西の病院をさらにスパイラルアップする中心的な役割を果たし、さまざまな検討を推進。新しい環

境が生まれましたが、これからも患者さんに施設の使いづらい部分を教えてもらい、改善につなげたいと思っています。西葛西での新しい試みの一つは、音サインによる男女のトイレの識別です。男性と女性のトイレを間違えてしまうショックを患者さんに与えないように、ピクトグラムなどを工夫していますが、従来はすべて視覚によるもの。西葛西では網膜硝子体手術が多く、とても見えづらい人にとっては色も判別しにくい。そこで聴覚によるサポートを試みています。それと、小児外来の壁画は子どもの患者さんが原画を描いてくれたもので、とても親近感が湧きます。楽しい部分や癒される部分も考えながら、地域にも貢献していきたいと思っています。



2F小児外来の「こどもトイレ」の扉は丸窓付き。一人でトイレに入った子どもの気配が外から分かるので安心である。



小児外来の「こどもトイレ」。子どもに合わせた設備の設置高さになっている。



小児外来前の壁画は子どもたちとデザイナー三浦滉平氏とのコラボ作品。西葛西にちなんで海の生き物が描かれている。

看護部長さんからの声

良いご案内のしかたは、みんなで共有します。



西葛西・井上眼科病院
看護部長
荒井桂子さん

ユニバーサルデザインにして、スタッフが患者さんに統一した説明をできるようになりました。良いご案内をしているスタッフがいると、みんなでそれを真似るなど、良いことは共有しています。また、日頃からアンケートで患者さんの声を聞き、使いにくい部分など教えてもらっています。開院時に患者さんにご迷惑をかけられないので、うまく運用できるように何回もリハーサルを実施。休日を利用して全体リハも2回行い、お茶の水のスタッフにも患者さん役でサポートしてもらいました。